ASHUREY CLASS主催

1st 「セレブレイト・マッツォート」

5.「良い地」における
「四つの木」の奥義

2023. 4. 12 (夜)

1.「良い地」とは

●神がアブラハムに与えると約束された
「わたしが示す地」が「カナンの地」
であり、「良い地」です。また、
「乳と蜜の流れる地」
「安住の地、ゆずりの地」
「父祖たちに与えると誓った地」
「どの地よりも麗しい地」
「主が絶えず目をとどめておられる地」
とも言われています。これらがすべて
キリストを啓示するたとえであるなら、具体的にどのように
啓示されているのかを学んで行きたいと思います。

2.「木」はキリストを啓示する ①

【新改訳2017】申命記8章8節

小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろのある地、オリーブ油と蜜のある地である。

●「良い地」にある「木」は四つです。しかもすべて実を結ぶ木です。「ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木」、特に「ぶどうの木」と「いちじくの木」と「オリーブの木」は、神とイスラエルに深くかかわっている重要な木です。そして今回は「ざくろの木」が加わっています。これらの四つの木がすべてキリストを啓示しているのです。その話をして行きたいと思います。

2.「木」はキリストを啓示する ②

【新改訳2017】詩篇1篇1～3節
1 幸いなことよ　悪しき者のはかりごとに歩まず
　罪人の道に立たず　嘲る者の座に着かない人。
2 【主】のおしえを喜びとし、昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。
3 その人は　流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び
　その葉は枯れず　そのなすことはすべて栄える。

●「幸いなことよ その人(アシュレー・ハーイーシュ/אַשְׁרֵי הָאִישׁ)」はキリストを証ししています。「その人は流れのほとりに植えられた木(＝移植された常緑樹)のように、神の時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える」のです。「その人」こそキリストです。このキリストに結ばれる者こそ、幸いな者となるのです。

2.「木」はキリストを啓示する ③

●「良い地」にある木は、以下です。それぞれの木の中に「幹も、枝も、そして実」も含んでいます。つまり、それぞれの木がキリストとイスラエルの民のたとえとなっています。異邦人である私たちは、そこに接ぎ木された者です。

(1)「ぶどうの木」・・・「ゲフェン」(גֶּפֶן)　(創40:9)

(2)「いちじくの木」・・「テエーナー」(תְּאֵנָה)　(創 3:7)

(3)「ざくろの木」・・・「リッモーン」(רִמּוֹן)　(出28:33)

(4)「オリーブの木」・・「ゼート」(זַיִת)　(創 8:11)

3.「ぶどうの木」を経験する ①

【新改訳2017】創世記40章9～13節

9　献酌官長はヨセフに自分の夢を話した。「夢の中で、私の前に一本のぶどうの木(גֶּפֶן)があった。
10 そのぶどうの木には三本のつるがあった。それは、芽を出すと、すぐ花が咲き、房が熟してぶどうの実になった。
11 私の手にはファラオの杯があったので、私はそのぶどうを摘んで、ファラオの杯の中に搾って入れ、その杯をファラオの手に献げた。」
12 ヨセフは彼に言った。「その解き明かしはこうです。三本のつるとは三日のことです。
13 三日のうちに、ファラオはあなたを呼び出し、あなたを元の地位に戻すでしょう。
あなたは、ファラオの献酌官であったときの、以前の定めにしたがって、ファラオの杯をその手に献げるでしょう。

●ここは「ゲフェン」(גֶּפֶן)の初出箇所ですが、「一本のぶどうの木」がイェシュアを啓示しています。献酌官長の他に、料理官長の夢の解き明かしも加えられていて、この二つの夢の解き明かしによって「イェシュアの死と復活」が証しされています。夢を解き明かしたヨセフにもイェシュアが隠されています。

3.「ぶどうの木」を経験する ②

【新改訳2017】詩篇80篇8～14節

8 あなたは エジプトから ぶどうの木(=イスラエルの民)を引き抜き
異邦の民を追い出して それを植えられました。

9 その木のために あなたが地を整えられたので
それは深く根を張り 地の全面に広がりました。

10 山々もその影におおわれました。神の杉の木もその大枝に。

11 ぶどうの木はその枝を海にまで 若枝をあの川にまで伸ばしました。

12 なぜ あなたはその石垣を破り 道を行くすべての者が
その実を摘み取るままにされるのですか。

13 林の猪はこれを食い荒らし 野に群がるものも これを食らっています。

14 万軍の神よ どうか帰って来てください。
天から目を注ぎ ご覧になってください。このぶどうの木を顧みてください。

3.「ぶどうの木」を経験する ③

(1) イザヤ書5章2, 4節(愛の歌)

2 彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。ところが、酸いぶどうができてしまった。4 わがぶどう畑になすべきことで、何かわたしがしなかったことがあるか。なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、酸いぶどうができたのか。

(2) エレミヤ書2章21節

わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。

●しかしイェシュアは、弟子たちに対して語られます。

【新改訳2017】ヨハネの福音書15章5節

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

3.「ぶどうの木」を経験する ④

●ここで重要なことばは「とどまる」です。ギリシア語では「メノー」(μένω)ですが、これをヘブル語にすると「住む」を意味する「ヤーシャヴ」(יָשַׁב)となります。しかし本来の意味としては「結びつく、一体となる」を意味する「ダーヴァク」(דָּבַק)が最もふさわしいと私は考えます。なぜなら、このことを実現するために、イェシュアの一連の贖いが不可欠であったからです。

●イェシュアが復活され「いのちを与える御霊」となって私たちの霊の中に入って来られたことで、人の霊と御霊がミングリングされ、ともに働くことで「一体となる」ということが可能となったからです。事実、それがすでに包括的になされています。このことが「ぶどうの木」に込められたメッセージです。

●15章5節は7章39節とともに預言的なことばです。これを個人的に自分のものとするためには、霊の中で信仰を働かせる必要があります。

4.「いちじくの木」を経験する ①

●神の民イスラエルは「いちじくの木」にたとえられます。イエシュアは、以下のように、預言的なことばを語っています。(1)ルカ13:6～9、(2)マタイ21:18～22、(3)24:32～33を順に見てみましょう。

(1)【新改訳2017】ルカの福音書13章6～9節
6 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。そして、実を探しに来たが、見つからなかった。7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年間、このいちじくの木に実を探しに来ているが、見つからない。だから、切り倒してしまいなさい。何のために土地まで無駄にしているのか。』8 番人は答えた。『ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥料をやってみます。9 それで来年、実を結べばよいでしょう。それでもだめなら、切り倒してください。』」
※「三年間」は第一・第二・第三神殿、「来年」はイスラエルの残りの者

4.「いちじくの木」を経験する ②

(2)a【新改訳2017】マタイの福音書21章18～19節
18 さて、朝早く都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。19 道端に一本のいちじくの木が見えたので、そこに行って見ると、葉があるだけで、ほかには何もなかった。それでイエスはその木に「今後いつまでも、おまえの実はならないように」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。

●イェシュアの弟子たちは、「いちじくの木が枯れた」という出来事の意味を理解することができませんでした。なぜならイェシュアのことばは、ユダヤ人たちにこれから起ころうとすることの預言だったからです。このイェシュアの預言は、A.D.70年にローマによってエルサレムが陥落し、ユダヤ人が世界中に散らされることで成就しました。このことが必ず起こることを教えたのが、続く21章21～22節のことばなのです。

4.「いちじくの木」を経験する ③

(2)b【新改訳2017】マタイの福音書21章21節
イエスは答えられた。「まことに、あなたがたに言います。もし、あなたがたが信じて疑わないなら、いちじくの木に起こったことを起こせるだけでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言えば、そのとおりになります。

●「いちじくの木」が「この山」と言い換えられます。聖書で「この山」といえばエルサレムのことです。そのエルサレムに向かって、「立ち上がって、海に入れ」(=原文「持ち上げられよ。そして、海に投げ込まれよ」)は、異邦人の手に落ちて、ユダヤ人たちが世界中に散らされることを意味します。聖書において「海」は「異邦人の諸国」の象徴です。「いちじくの木」に込められたメッセージとは、イスラエルの民とエルサレム(神殿)が再び建て直されるために、後の世界離散は通らなければならない神の必然的出来事だということです。ですからイェシュアが弟子たちに「もし、あなたがたが信じて疑わないなら、いちじくの木に起こったことを起こせるだけでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言えば、そのとおりになります」と言ったのは、神のご計画において必ずそのようになるという信仰を持つことを求めたのです。

4.「いちじくの木」を経験する ④

(2)c【新改訳2017】マタイの福音書21章22節
　あなたがたは、信じて祈り求めるものは何でも受けることになります。

●18～21節までは、イェシュアの初臨と再臨の間に起こることが語られています。ですから弟子たちが御国の約束を知り、またそれをもたらす神のご計画を信じて祈り求めることは、「何でも(＝すべて)受け取ることになる」(未来形)とイェシュアは言っています。

●「何でも受けることになる」の「何でも」とは神のみこころにそった「何でも」であり、しかもそれを「受けることになる(受け取る)」のは将来のこと、つまり御国が完全に到来するキリストの再臨の時です。神のご計画の全体像を知ること、そしてその中にある神の約束を知ることは、とても重要なことではないでしょうか。

4.「いちじくの木」を経験する ⑤

(3)【新改訳2017】マタイの福音書24章32～33節
32 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかになって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。33 同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。

●ここでの「枝が柔らかになって葉が出て来る」ということばは、イスラエルが国として復興すること(1948年)を預言していると考えられます。「夏が近い」ということは、イエシュアの再臨の時期(仮庵の秋)がいよいよ近づいていることになるのです。

●これが、御国の福音における「いちじくの木」に込められたメッセージです。「いちじくの木」は神の時を啓示する重要な木なのです。

5.「ざくろの木」を経験する

●大祭司の装束の裾周りには、青、紫、緋色の撚り糸で作られたざくろがあります(出28:33)。雅歌には「ざくろ」(「リッモーン」רִמּוֹן) ということばが6回使われています。これは花婿と花嫁である教会とのかかわりにおいて使われている表象と考えられます(4:3,13/6:7, 11/ 7:12/8:2)。

●「頬は・・ざくろの片割れのようだ」(4:3)、「あなたの産み出すものは、最上の実を実らせるざくろの園」(4:13)に花嫁の美しさがたたえられています。ステファノに見るような、イエシュアの片割れのような献身的な姿を彷彿とさせます。これが「ざくろの木」に込められたメッセージです。花嫁なる教会がこのような美しさであることを、花婿は求めておられるのです。

6.「オリーブの木」を経験する ①

「ぶどうの木」・・・イェシュアの初臨までのイスラエル
「いちじくの木」・・イェシュアの初臨から再臨までのイスラエル
「ざくろの木」・・・教会
「オリーブの木」・・メシア再臨時のイスラエルの回復(メシア王国)

●ローマ人への手紙9～11章には、これらの全体が包括されています。

(1)9章には、エジプトから携え出されてカナンの地に植えられた選びの民、イスラエルの民が「ぶどうの木」として記されています。
(2)10章には、イスラエルと福音が述べられており、神は御子によって、農夫のように「いちじくの木」の周りに肥やしをやりましたが、その結果は良くなかったことが記されています(10:21はイザヤ65:2の預言)。
(3)11章16～18節には、神の民イスラエルと教会との関係が記され、
(4)11章25～32節には、イスラエルが頑なにされたのは目的があったこと、そしてイスラエルは民族的に救われることが語られています。

6.「オリーブの木」を経験する ②

【新改訳2017】ローマ人への手紙11章16～18節

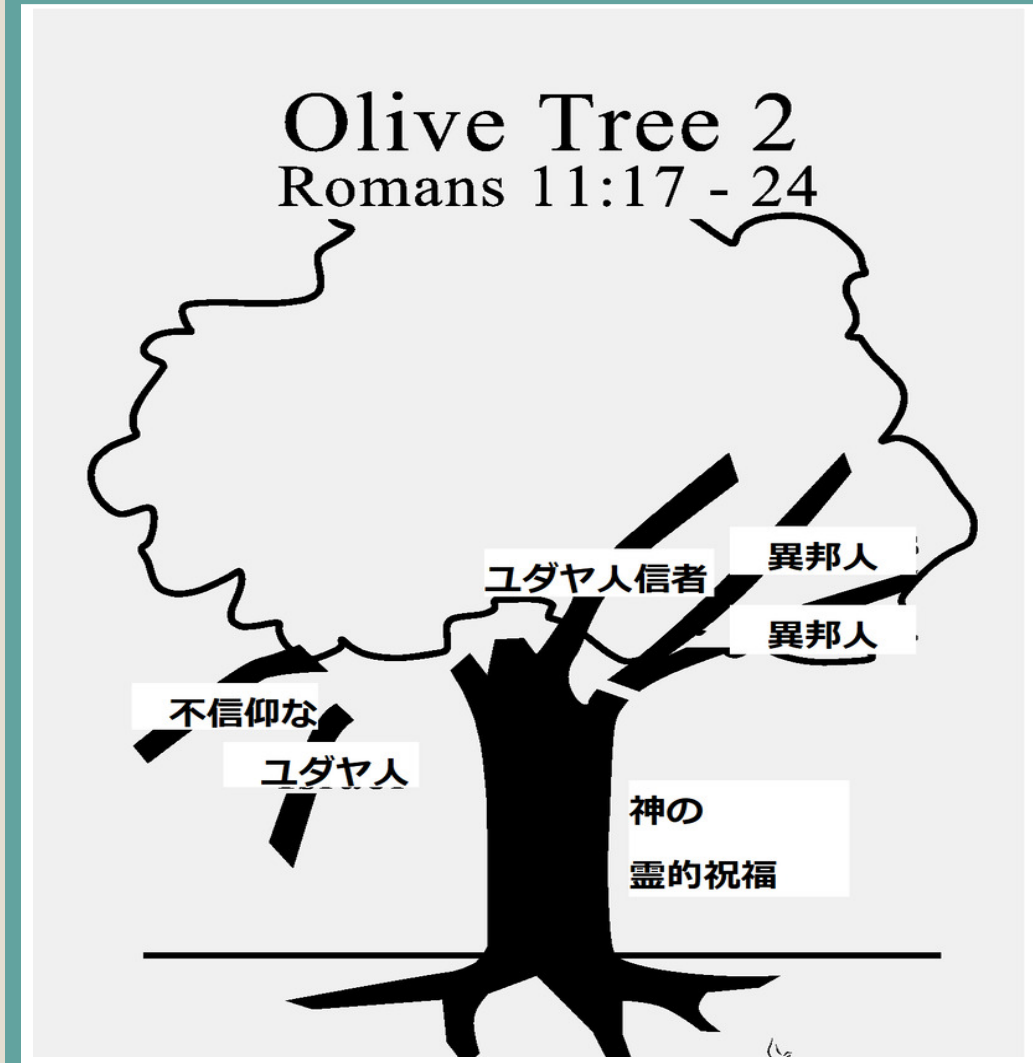
16 麦の初穂が聖なるものであれば、こねた粉もそうなのです。
根が聖なるものであれば、枝もそうなのです。

17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、

18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

●このみことばには、イスラエルと教会との関係が表されています。「根」は選びの民イスラエル、「折られた枝」とはイエシュアをメシアとして拒んだユダヤ人、「接ぎ木された野生のオリーブ」とは異邦人クリスチャンです。したがって「オリーブの木」が示すメッセージは神の民に対する神のご計画全体なのです。

今回のまとめ



●オリーブの根は木全体に豊かな養分を与えながら、やがて豊かな実りをもたらします。

(1)「**折られた枝**」は、不信仰なユダヤ人

(2)「**接ぎ木された枝**」は、異邦人信者

(3)「**自然な枝**」は、ユダヤ人信者
(メシアニック・ジュー)

(4)「**折られたが、再び接ぎ木される枝**」
は、メシア再臨前にイエシュアを
メシアと信じるユダヤ人、すなわち
「イスラエルの残りの者」

●教会とは(2)と(3)の共同体です。
しかも、教会の根はヘブル的なのです。